

1月28日(土) 13時より15時 於：富山県立図書館多目的ホール

## 「総合的な学習における図書館教育と情報教育の連携」

講師 高橋純 氏 (富山大学人間発達科学部准教授)

後援 富山県教育委員会 富山県図書館協会

今回の学習会の参加者は教員や学校図書館司書、ボランティアなど多岐に渡り、特に教員の参加が多く得られた。そのような中で高橋氏は、「総合的な学習の時間」が設定された意義を明らかにし、それが教育の場で十分生かされていない問題点やどこを押さえていかなければならないか、さらには情報教育と図書館教育の現状などを幅広く展開されて述べられた。

### 「総合的な学習の時間」の意義

「総合的な学習の時間」には膨大な授業時間(総時数 945 時間の内、小学 3・4 年では 105 時間、5・6 年では 110 時間)があてられている。それは、国際化や競争社会の激化、求められる能力や経済的に満たされていることによる子どもの変化などに対応し、画一化、硬直化という教育の問題を打開できるように、各学校が創意工夫する時間枠の設定としての意味が大きいからである。

### 現状と「総合的な学習の時間」を生かす方法

現状では、子どもにやりたいことをやらせ、子どもの目が輝いていたとか、生き生きとしていたとか、主体的に活動していたというようなことを評価し、生活科に毛が生えたような学習や遊びともつかない体験ごっこをさせていることが少なくない。しかし、子どもに好きにやらせれば、自然に力が付くわけではない。

各教科には教科書があって、具体的な学習展開の流れがあり、積み重ねができるようになっている。「総合的な学習」においても、教師が意図的・教育的に関わり、1つ1つ教えて、徐々に力をつけさせていくことが必要である。そのためにはスモールステップを積み重ねていかなければならない。

情報教育に自信のない先生も安心して授業ができるように、仲間の先生たちと協力して情報教育の教科書を作った。『わたしたちとじょうほう 3、4 年』『私たちと情報 5、6 年』である。

### 情報教育と図書館教育

イギリスや韓国の IT 教育を視察したが、日本の IT 教育は極めて貧困である。2000 億円もの予算がついていながら、有効には使われていない。

図書館教育の法整備は情報教育よりは進んでいるが、予算の裏付けがなく、標準数に満たない蔵書しか持っていない学校がほとんどである。

高橋氏は、情報教育も図書館教育も普及させることが大事であるという話を冒頭において強調された。まだまだ普及していない現状をあらためて認識すると共に、視察された海外の情報教育の映像には、日本の情報教育の貧困さを実感させられた。

(佐伯昌子記)